

第4回「弥富市地域公共交通活性化協議会」 議事録

平成 28 年 3 月 18 日（金）

時間 午後 2 時 30 分から

場所 弥富市 第1研修室

（弥富市役所付属施設 2 階）

○議 事

1. 開会

事務局 （橋村）	・ただいまから、平成27年度 第4回弥富市地域公共交通活性化協議会を開催する。
-------------	---

2. 弥富市長挨拶

事務局 （橋村）	・最初に、服部弥富市長よりご挨拶をいただく。
服部市長	・年度末の大変お忙しい中、第4回弥富市地域公共交通活性化協議会、各委員の皆さま方、ご出席いただき感謝する。 ・市役所が耐震性が無いことや大変老朽化しており、新庁舎の建て替えを進めているが、訴訟問題等により長引いており大変ご迷惑をおかけしている。しかし、建物そのものが耐震性が無いことで、地域の皆さま方、市民の皆さま方に迷惑をかけるわけにもいかない。職員も業務上の安全を考えないといけない。5月のゴールデンウィークに仮庁舎へ移って行政業務をやっていきたいと思っている。今後、ご案内させていただく会場については、十四山支所等になることもあろうかと思う。案内を確認いただいて参加いただきたい。 ・バスについては効率化をどう図っていくか、利用者をどう拡大していくか、これまでも熱心にご協議いただいた。今日ご協議いただくのは今後5年間の次のステップに向けた新たな目標、計画である。その策定、事業計画、平成28年度予算について議論いただきたい。 ・市民の声としてももう少し直線的に急行バスとして時間的、経路的にも短縮して利便性を考えてはどうか、という声もあり、新たな提案としても検討していく。 ・皆様方のご意見を伺いながら会議を進めていきたい。
事務局 （橋村）	・事務局より、資料の確認をお願いする。
事務局 （久野）	○資料の確認 会議次第 資料1：弥富市地域公共交通網形成計画（案） 資料2：パブリックコメントの結果及び対応 資料3：平成28年度弥富市地域公共交通活性化協議会 事業計画（案） 資料4：平成28年度弥富市地域公共交通活性化協議会 予算（案）

	・当日配布資料として 配席表 東部ルートの運行方法の見直し検討について
--	---

3. 議題

(1) 弥富市地域公共交通網形成計画（案）について

山崎議長	・協議会の議事進行を務めさせていただく、公益財団法人豊田都市交通研究所の山崎である。 ・今日の議題は、「弥富市地域公共交通網形成計画（案）について」と「平成28年度弥富市地域公共交通活性化協議会事業計画及び予算（案）について」である。最後、その他として、今後の路線について報告がある。 ・議題（1）弥富市地域公共交通網形成計画（案）について、今までのおさらいをさせていただく。前回までの会議において、資料1の形成計画（案）について皆さんご承認いただけている状況で確認をさせていただいた。誤字脱字等細かい修正を事務局で行ってパブリックコメントの結果を踏まえて、本日ご審議いただく。 ・事務局より資料の説明をお願いする。
事務局 (久野)	○資料説明（00：09：00～00：15：22） ・右肩に資料2と記載のある「パブリックコメントの結果及び対応」を基に説明させていただく。 ・弥富市地域公共交通網形成計画に対するパブリックコメントは平成28年1月18日から2月17日までの1か月間実施した。 ・実施方法は弥富市ホームページへのや回覧への掲載、弥富市市役所危機管理課、十四山支所、鍋田支所での閲覧を実施した。 ・その結果、3名の方から4つの意見を頂いた。 ・その意見の概要と回答案について説明する。 ・「収益を確保する事が、持続可能な地域公共交通であり、弥富駅（近鉄北口限定）⇔海南病院など、核となる地点を絞り込み、短距離のバス交通を多くし、乗客の満足度を高めるべき」については次のように考える。 ・「現在、総合福祉センターやイオンタウン、近鉄弥富駅や市役所、海南病院を含むエリアを重点的に運行する拠点集積エリアとして位置づけ、全ルートが乗り入れ、他の地域よりも高い運行頻度を確保しており、今後このエリアに関しては重点的な運行が必要だと考えている。」 ・「核となる地点を絞らんだ短距離運行バスの運行に関しては、現在のバス車両の保有台数（5台）の中での対応が難しいため、今後の課題として、実施事業「地域特性や利用特性に応じた運行改善」の中で検討したいと考えている。（P82）」 ・「コミュニティバス以外に、弥富駅・佐古木駅や市の施設等の拠点から役所・スーパー・病院行き等のシャトルバスをルートバスを走らせてはどうか。バスに乗る目的別にシャトルバスとルートバスを使い分けてはどうか。

	→ルートバスは弥富駅・佐古木駅などを最終目的地（拠点）とし利用されるので、交通安全の問題もあるがバス停を増強。 →シャトルバスは、民間とタイアップして、買出し（イオンタウンなど）と通院（海南病院など）も意識するとともに、公共施設をつなぐルートも検討。」については次のように考える。 ・「新たなバス路線の運行に関しては、現在のバス車両の保有台数（5台）の中での対応が難しいため、今後の課題として、実施事業「地域特性や利用特性に応じた運行改善」の中で検討したいと考えている。（P82）」 ・また、「実施事業「主要施設へのきんちゃんバス情報掲示」の中で、特に近鉄弥富駅等の拠点において、バス利用者がどのバスを利用すれば主要な目的地に行きやすいかが分かりやすいよう、掲示する情報の内容も検討したいと考えている。（P91）」 ・「高齢者等の多くが診療所を利用しており、現在の巡回方式で対応出来なくなっている。現在のバスを利用している人の多くは自分の生活リズムにあっているごく少数の人であり、予約等を含む行先に直行できる方式の研究と、「何のために今バスを利用したいか」の希望調査を市として行うべき。」については次のように考える。 ・「弥富市地域公共交通活性化協議会においても、平成24～25年度にかけて予約制（デマンド方式）による運行を検討したが、新たに車両を導入する必要があることや、運行費用が増加すること、予約制による利便性の低下から利用者が減少する可能性が高い等の理由により導入が見送られた経緯がある。毎年モニタリング調査を実施していくので、その中で意向を把握していく。」と考えている。 ・「P64：現在のタクシーの利用は、介護認定による高齢者タクシーは年24枚、他人の介護が必要だったり、高齢等で歩行困難、自転車や自動車に乗れなくなった人が年24枚というのは少ない。介護認定がなくても必要な人には高齢者タクシーの認定を。市の東部や南部に住む移動困難な人には、バスの対応でも日常生活が脅かされている人には、割増チケットの交付をすること。」については次のように考える。 ・「高齢者等福祉タクシー料金助成事業については、その利用率が全体として5割に満たない状態であり、枚数については現行通りとするが、介護予防・日常生活支援総合事業の基本チェックリスト該当者については、タクシーチケットを同数配布する予定をしている。」と考える。 ・今回の意見については、ホームページに回答を掲載するので、回答の内容についてご議論いただければと思う。 ・また、弥富市地域公共交通網形成計画の内容については資料1となっており、意見に対する修正対応はないものとして考えている。 ・以上で議題（1）弥富市地域公共交通網形成計画（案）についての説明を
--	--

	終わる。
山崎議長	・ただ今、パブリックコメントの結果と対応案に関してご説明いただいた。資料 1 についてはパブリックコメントの意見によって変更するところはないということである。 ・資料 2 の PO は回答に対応したページということでもいいか。
事務局 (久野)	・その通りである。
山崎議長	・はい、そちらをご参照いただきたい。 ・ただいまご説明いただいた件について、ご意見、ご質問はあるか。
服部市長	・タクシーチケット制度について皆さんご理解がないと思う。現在、弥富市が発行しているタクシーチケットについてご説明をお願いしたい。
事務局 (橋村)	・タクシーチケットについて、計画の P65 に高齢者等福祉タクシー助成事業が記載されている。要介護認定又は要支援認定を受けた方など、1 人で移動できないなど移動に制約のある方にタクシー料金の助成を行わせていただいている。料金についてはタクシーチケットの配布で対応させていただいている。利用券については年間 24 枚のタクシーチケットを交付させていただいている。 ・これは福祉政策の関係で、福祉で介護が必要な方に福祉の増進が目的で助成をさせていただいている。下段の表については、タクシーの利用状況を載せている。地域公共交通のバスと福祉事業のタクシー助成は連携が取りづらいこともあるのではと私個人的には思っている。 ・回答案にもある通り、タクシーチケットの助成をしている状況だが、利用実態については半分も利用されていない。
服部市長	・事務局から補足してもらったが、自分も同じ考えである。我々が福祉施策としてやっている制度であり、例えば地域公共交通の中でやっている計画のものとは相容れないものが出てくるだろうと思っている。できたら私は別に考えていくべきだと思う。
山崎議長	・目的はタクシーであるが、公共交通（バス）ではカバーできない方々を福祉施策で移動をカバーしているという位置づけである。
福田委員 (民生委員)	・80 才ぐらいになると免許証を返納する方がいる。外出が控えられ、車に乗れないと出なくなってしまったという意見も結構あるが、そういう方に年齢制限で出していただくことは無理なのか。健康維持のために…。
事務局 (橋村)	・バスについては、75 歳以上の方には無料バスがある。 ・免許返納者については福祉部門との相談となるので、ここでは回答を控えさせていただきたい。申し訳ない。
福田委員 (民生委員)	・福祉タクシーと名が付いていたら、できるだけ免許返納者にも使っていただけたらいいかなと思う。路線に近い方は良いが、今まで元気だったら車に乗って出掛けられた人が、歩いてそこまで行く、また荷物を持っていたら不便になる。事故が起きる前にそういうことを考えていただけたらいいと思う。
事務局	・貴重な意見である。

(橋村)	
木全委員 (公募委員)	平成 24～25 年にかけてデマンド方式を検討したということであるが、バスによるものなのか、タクシーを活用したものなのか。どこまで検討されて費用がかかりすぎることになったのか。当時いなかったの で教えていただきたい。
事務局 (橋村)	- デマンド方式については 2 種類検討させていただいている。新しく車両を導入して予約して乗り合いで運行する方法と乗用車のタクシーを使って、待機させていただいて予約があればそちらへまわる方法である。 - 新しい 10 人乗りのワゴンタイプの車両等を導入となると経費もかかる。タクシーについても待っていただくにも利用がない時も待機の分の費用がかかる。 - 高齢の方が結構使われる。視察にいったお聞きした中の話だが、予約するのが面倒であるとか予約が取りづらいということで、結果的には利用率が下がってしまいデマンド方式については要検討が必要であるという判断をさせていただいた。デマンド方式はやらずに今の運行形態でいくという結論付けをさせていただいた。
山崎議長	- パブリックコメントを 3 名の方から 4 つの意見があり、こういった形で回答していく。 - 今回、パブリックコメントも実施して回答を提示していく。計画書に関してはパブリックコメントで寄せられた意見に関しては対応できている。それを踏まえて弥富市地域公共交通網形成計画に関して承認いただけるかどうかをご審議いただきたいと思う。 - 弥富市地域公共交通網形成計画の策定に関して、承認いただける方は挙手をお願いします。
委員一同	(全員挙手)《承認》
山崎議長	- 全会一致で承認された。 - 協議会として計画書が承認されたので(案)を外す。今後の手続きに関しては支局さんからご指導いただいて進めていただければと思う。よろしくお願いします。 - 何かお気づきの点があったら事務局にご連絡いただきたい。

3. 議題

(2) 平成 28 年度弥富市地域公共交通活性化協議会 事業計画及び予算(案)について

山崎議長	次に、議題(2)平成 28 年度弥富市地域公共交通活性化協議会 事業計画及び予算(案)について、事務局より資料の説明をお願いします。
事務局 (久野)	○資料説明 - 平成 28 年度弥富市地域公共交通活性化協議会事業計画及び予算(案)について、資料 3、4 を基に説明する。 ○資料 3 説明 平成 28 年度弥富市地域公共交通活性化協議会 事業計画(案) 1. 弥富市コミュニティバス運行について - 平成 25 年 10 月に改正したダイヤによる運行を継続する。なお、国の「地

	域公共交通確保維持改善事業」という補助事業のうち、「地域内フィーダー系統確保維持事業」を活用し運行する予定である。 2. 運行の検証、改善方策の検討について ・「利用者実態調査」や「モニタリング調査」等の必要な調査を実施する。 ・また、運行の検証と改善方策の検討においては、網形成計画に位置づけた、海南病院改築に伴うルートの見直し検討、東部ルートの運行方法の見直し検討、観光と連携した運行方法の見直し検討などを実施する。 3. 利用促進策の実施について ・「利用者負担軽減策の実施」に関しては、コミュニティバス利用者の金銭負担の軽減を図り、利用促進を図るため、平成 23 年 4 月 1 日から導入しているシルバーパスや定期券、回数券の販売を継続する。 ・「利用促進策の検討・実施」に関しては、コミュニティバスの利用促進を図るため、平成 23 年度から実施しているサイクル&バスライド駐輪場設置を継続する。また、その他にも、網形成計画に位置づけた、分かりやすい情報提供による利用促進検討、認知度向上による利用促進検討などを実施する。 4. 平成 29 年度生活交通ネットワーク計画の策定について ・ここまでの検討結果を踏まえ平成 29 年生活交通ネットワーク計画を策定する。 ・つづいて、配布資料では 6 となっているが、5 となる。訂正をお願いする。 5. 協議会の開催について ・予算・決算、運行の検証や改善方策の検討結果等に基づく次年度事業計画の承認等のため協議会を開催する。 ・協議会の開催と作業の概ねのスケジュールを 2 ページ目に示している。協議会は計 4 回を予定しており、作業の進捗にあわせ、適宜開催していく。 ○資料 4 説明 平成 28 年度弥富市地域公共交通活性化協議会 予算（案） ・予算（案）について説明する。【資料に基づき説明】 ・平成 28 年度弥富市地域公共交通活性化協議会事業計画及び予算（案）については、以上となる。
山崎議長	・ただ今のご説明に関して、ご意見、ご質問はあるか。
石屋委員 （交通対策課）	・例年やられていることだと思うが、モニタリング調査はアンケート調査だと思うが、対象はどの範囲だったのでしょうか。
事務局 （橋村）	・今年 27 年度は乗車された方に限定してやらせていただいた。今回、庁舎改築の問題もあり、どこで降りられるか、市役所をどのように使われるかということもあり、乗車される方を中心にモニタリング（乗降客調査）をさせていただいた。一昨年は全体を把握するために抽出して調査した経緯もある。目的別に決めて毎年調査をさせていただいている。
石屋委員	・平成 28 年度はこれから決定していくのか。

(交通対策課)	
事務局 (橋村)	・ そうである。
山崎議長	・ 計画書の中には利用者アンケート調査という言い方をしている。利用者という書き方だと通常は使っている人を乗降客に対する調査ということになるかと思う。市民全体を利用の可能性のある人ということで利用者アンケートという言葉を一般的に使ってもいいという読み方もあるにはある…。
石屋委員 (交通対策課)	・ モニタリング調査と別にあったので違うのかなと…。
山崎議長	・ 細かい調査内容は今後決めていくということで…。
事務局 (橋村)	・ 今後決めさせていただくので、ご指導よろしくお願いする。
白木委員 (愛知運輸支局)	・ 形成計画に事業が記載されている中で、28年度から検討というものも若干いくつかあると思うが、この中には入ってないけれどもそれも検討をされているということで理解しておけば良いか。
事務局 (橋村)	・ その通りである。
山崎議長	・ 長い計画として網形成計画がある。その中で全体のスケジュールで検討と入っている部分がある。具体的に事業計画としては挙げてはいないが検討はしていくということである。
事務局 (橋村)	・ 資料の P79 から特に計画としては P80、81 をご覧いただくと、矢印等で表示をさせていただいている。全部が全部できるものではないけれども順次、検討を進めさせていただくのでよろしくお願いする。
服部市長	・ 国の補助金が当初の計画からするとほとんど皆無という状況になっている。今日は国土交通省の方にもお越しいただいているが、地域公共交通に対する今後の国の方向性をお聞きできればと思う。 ・ 大変厳しい地方財政の中で、我々としても約 1 億という金額を地域公共交通にかけているので、それぞれの自治体主体でやりなさいということなのだろうけれども、その辺の考え方はどうでしょう。
白木委員 (愛知運輸支局)	・ 基本的には根本的な考え方は、国として支える部分はどこでしょうということで、まずは幹線路線については国や県で公的な支援をしていく。それに繋がるようなフィーダー路線、今回のルートもいくつかあるがその中で条件に合ったものを予算の範囲内でご支援させていただくというようなルールになっている。 ・ ただ、ご存知のようにコミュニティバスは弥富市だけでなく日本全国各市町村で運行していただいているし、ルートも増えてきている。少ないパイを皆さんで分け合っているのが実情である。 ・ 一方、国全体から見れば地方創生の関係の中で、ハードルは高いが新型交付金の活用として新規性があるものや将来事業性が見込まれるものとか限定されたものではあるが、支援していく用意はあるので、企画部

	門の調整も必要かと思うがその辺もご検討いただければと思う。
山崎議長	・自治体も大変な状況にあるものの、国や県も大変な状況である。 ・全体と言えることだが、皆さんどちらの自治体、市町も苦勞されている状況である。地域としてサポートする、地域が負担する仕組みを考えて何とか資金を確保しているようなところもある。
白木委員 (愛知運輸支局)	・補足になるが、当然サービスを充実させようとする予算はかなり増える。これはご存知の通りだが、他の所では市の中の沿線ルートにある企業や商店から協賛金をいただいて併用したり、ルートの地区の皆さんでお願いに回って協賛金を集めたりという努力をされて何とか維持されているところもたくさんある。そういった方向についても市民の皆さんが意見を出し合って、きんちゃんバスが持続可能なものにできるように知恵を出し合っていたきたい。私どもも良い事例があればご案内させていただきたいと思う。
服部市長	・個別にお聞きした方がいいかもしれないが、国の補助金が難しいのであれば、この事業を運営していく上において、例えば国土交通省さんでこういうメニューがあって起債の発行ができるとか、あるいは違う方法で財源を確保したらどうだというような考え方はないのだろうか。1700～1800ある地方自治体において、この高齢化社会の足をどう支えていくかということは本当に大変である。 ・4市2町1村の海部地域の管内でもそれぞれ地域交通をやってみえるが大変ご苦勞されているのが現実的である。どうするということも含めて首長が集まる場などで議論になる。 ・アドバイスがあればお願いしたい。
山崎議長	・運輸局で事例集をつくられたり、セミナー等開催したり、新しい制度ができると説明会をまめにやったりと運輸局側も頑張っているなど、私どもから見ると感じるところである。 ・市長が言われたことに関して何かあればお願いする。
白木委員 (愛知運輸支局)	・正直言って、何かあるかというところ今の所はないとしか答えられない。 ・新規性のあるものは新型交付金を使えるので、弥富市だけでなく飛島や周辺の市町村で一体的なものを考えると、新たな視点での見方というものもあるかもしれないと思う。 ・他にも国土交通省だけでなく、厚生労働省や国交省でもまちづくり部局でも支援メニューがある。それについては整理したものもあるので事務局へも知らせる。ただ、今の時点で効果的なものがあるかというところは厳しいという回答しかできない。
山崎議長	・今日は出席されていないが、タクシー協会さんいろいろなやっているようである。弥富だと名古屋タクシー協会だが、愛知県タクシー協会では高齢者で免許返納した方がその証明を出すことでタクシー料金の10%割引をしている。誰が負担しているかというと、国や県に頼っているわけではなく、タクシー事業者が負担している。国や県に頼るだけでなく事業者も頑張っているところもある。名古屋タクシー協会さんもそういっ

	たことも検討していくという話も聞いているが、弥富市さんとして協議会出ているか？話があったか？タクシー協会さんが今日いらっしゃらないので…。
事務局 (久野)	・名古屋タクシー圏準特定協議会に出席させていただいている。今年度中にタクシー協会の計画ができあがるので、その中のメニューとして載ってくるはずである。弥富市も加入しているので、その中でメニューが出てきたら実際それが制定されるので、検討させていただきたいと考えている。
山崎議長	・いろんな方々がそれぞれ頑張って負担しながら地域の交通を確保していくという、基本的な部分はそこで頑張っていくという状況かと思う。
福田委員 (民生委員)	・デパートに行くのと駐車券があるが、弥富もイオンタウンさんへ買い物に出るとベンチに座って荷物を持って待っている。前は中に入らなかったのが最近は便利で中に入らせてもらえるようになった。そこでスタンプをもらって半額券をいただけるようになったら買い物に行く人もあるかもしれないのでイオンさんと話し合ってもらったらどうでしょう。
山崎議長	・良いお話をいただいた。実際にやられている事例はいろいろある。私も別のところで買い物バス実験みたいのに、買い物してスタンプを押してもらったら帰りの回数券をあげるという実験をやったことがあるし、実際に導入されている事例もいくつかある。
福田委員 (民生委員)	・海南病院さんもたくさん乗られるから、病院も100円ぐらいの負担をお願いできたらいい。
山崎議長	・商業施設等が負担してくれるというやり方もあるので…。
福田委員 (民生委員)	・いろいろ考えてほしい。
牧野委員 (海部建設)	・既に事例があるかもしれないが、地域公共交通のバスにラッピングするというのはできるのか。できれば臨海部の企業さんなど宣伝を取り込むとか、そうすることによって収入が何かしらあげられるのではないかなと思う。
山崎議長	・ラッピングも当然できるし、弥富市は広告やっているはず…事務局から説明をお願いします。ラッピングまではやっていないが、弥富市自体も広告収入を得ようと広告スペースを開放している。
事務局 (橋村)	・バスについてラッピングまではいかないが、車内に広告を掲載して運行経費に充てている。いくらかは今すぐには出ないので申し訳ない。
牧野委員 (海部建設)	・関連の提案でよろしいか。 ・車内広告というお話があったが、例えば小学校や幼稚園の児童が書いた絵を車内広告のところに掲示すると親御さんが見にくくのではと思う。バスの中をいかに楽しむかという発想で何か展開されるのもおもしろいかと思うがいかがか。
山崎議長	・今朝、知立市の協議会を開催してきた。知立市では実際にやっていて、子どもの絵ではなく俳句の展示をバスの車内にしていた。絵や俳句を募集してコンテストの入選作品を車内に展示している。利用促進として参

	考にさせていただく。
佐野委員 (公募委員)	・ 東部ルートの運行方法の見直し検討があるが、東部ルートを見ると十四山が占めているような気がする。住民アンケートはバスに乗った方だけなのか各家庭にされるのか。
事務局 (橋村)	・ 住民アンケートとここに書いてある意味については、各家庭を想定している。ただ、進め方について、今日ではないが委員の皆さま方にいろんなご意見をいただいて、どういった方式を取るのか、どういった場所についてどういう考え方でやっていこうということを決めてからの話になるので、必ず住民の皆さますべてにアンケートをとるという意味ではない。
佐野委員 (公募委員)	・ スケジュールでは 6 月ぐらいの予定になっていたのを確認した。
事務局 (橋村)	・ 公共交通網形成計画に東部ルートの改定についても掲載しているので、なるべく早いうちということで 6 月の予定で掲載した。6 月の第 1 回協議会においてすぐ取るのか、それとも少し考えてからになるのかということを決めていただきたいと思います。
山崎議長	・ 他にいかがか。 ・ 予算に関してはよろしいか。 ・ それでは平成 28 年度の事業計画と予算案についてご審議いただきたい。平成 28 年度弥富市地域公共交通活性化協議会事業計画及び予算(案)についてご承認いただける方は挙手をお願いします。
委員一同	(全員挙手)《承認》
山崎議長	・ 承認された。

3. 議題

(3) その他

山崎議長	・ 議題(3) その他について、事務局から何かあるか。
事務局 (橋村)	・ その他のところで、ご提案をお願いしたい。 ・ 東部ルートの運行方法の見直し検討についての資料を出していただきたい。 ・ 今まで市民の皆さんのアンケート調査でいろんなご意見をいただいている。今回のパブリックコメントでも拠点から拠点へ早く移動できないのかという話をいただいている。運行間隔の短縮や乗車時間の短縮といった要望が多くある。これには幹線化のような直線的な運行を考えていかないとできない。検討案としてご提示させていただいた。今回は東部ルートを出させていただいているが、今後、南部ルートや北部ルートについても順次同様に検討を進めていかないといけないと思う。 ・ 配布資料については東部ルートの参考資料である。現在、右回り、左回り、要は福祉センターからぐるっと回って、もう一回福祉センターへ戻ってくる、また今度は逆ルートを回るという1日5便の運行をさせていただいている。下の変更後のイメージでは、福祉センターから佐古木まで直線的に運行する。上との違いは、市内の中を回って運行しているが、

	中を回らせていただいているところがほとんど乗車の方がないので、ここのバス停を省かせていただいて直線的に佐古木駅へ向かう。そうすると計8便／日運行できる。同じバス停を通る回数も倍に増えるので、格段に改善が図られてくると思うが、まだまだ検討を要するところがある。 ・今まで走っていたバス停をなくしてしまうことになるので、これについては市民の皆さまのご意見等もお聞きしながらどのようにやっていくか…。その前に、この協議会でどんな方向でいくのかという検討を順次詰めていきたいと思う。28年度の調査業務の中で検討を進めていきたいと考えている。今後皆さまのご意見等もお伺いしながら進めていきたい。
山崎議長	・今お話しいただいたのは、先ほどご承認いただいた事業計画の中の「運行の検証と改善方策の検討」という事業項目の中の「東部ルートの運行方法の見直し検討」というところである。 ・本格的な検討は来年度やっていく。今の段階で、ひとつの案としてこんなことを考えているという参考資料ということである。事務局から説明があったように、いろんなところからの意見も踏まえながら、かつ、今までの調査データもあるので、バックデータを整理して、全体としては良いものになるというところをきちんと示していただけるようにしていただきたい。 ・これに関してはよろしいか。今はまだ、今後やっていくというご紹介ということである。 ・今の件も含めて、何かご意見はあるか。 ・議題はこれですべてである。 ・事務局から連絡事項はあるか。
事務局 (橋村)	・次回、平成28年度第1回協議会は6月を予定している。日程が決まり次第、連絡するのでよろしくお願いします。
4. 閉会	
事務局 (橋村)	・以上で、第4回弥富市地域公共交通活性化協議会を閉会する。 ・今後ともご協力をお願いします。
	以上